

F-6 家族の“共通の時間”についての調査

美作短大 藤田 泰子

○額田 清

1. 家庭とはなにか、という問題をつきつめて行くために、家族がどのくらい共通の時間を持っているかを調査する。

2. 短大学生 150 名に対しアンケート用紙を配布、平日および休日の各 1 日ずつについて、家族全員の生活時間の記録を求めた。

3. 近代社会の特徴として、多く職場を家庭外に持ち、子女も学校へ通い（しかもその在校時間は長く）家族間の時間の重なりは小さい（農家では夫婦の共同作業が行なわれているがその時間は減少している）。

在宅時間内においても各人の志向するところが異なり“共通の時間”は極めてわずかである。

休日においても一家そろっての共遊びという傾向を認められなかった。

以上の結果から、実庭の本質・機能という面において再考を要するのではないかと思われる。